

あいあい通信

AIAI-TSUSHIN 2003.1 Vol.22



Matsuda Hospital

特集◎ 胃の疾患について / 医局長 木村 浩三

年頭のあいさつ / 院長 松田保秀
平成14年度の委員会活動報告
『患者様の声を聞いて』
ピーチメール

2003





年頭のあいさつ

＊ 院長 松田 保秀 ＊



松田院長

新

年のお慶びを申し上げます。2003年が静かに始まりましたが、今年も日本国民は大きな重荷を背負ってのスタートです。地球の温暖化は確実に進行してきて、先行き不安な予測だけが明確になってきております。その他のことは何一つ希望の持てる事象は見当たりません。しかも医療界におきましては、今年が改革の総仕上げの年だと言われており、我々中小病院にとっては将来の存続を左右する大切な1年間となることでしょう。為政者はよく言いまします。「そんなに大変なら知恵を絞っている工夫すれば、いくらでも生き延びる手はあるだろう」と。しかし、各種の法律や規則で手足を縛ったままで『勝負をしろ』と言ってもそれはアンフェアで、無茶・いじめというものです。

こ

れから私達が突入しようとする医療の世界はどんな環境なのでしょうか。努力が水泡に帰すだけではなく、かんなんしんく 艱難辛苦が成り立たなくて時代おくれだとか、始めから存在し得ない方向違いの道ではないでしょうか。そんなことをあれこれ考えていると、最近どこかの新聞記事に弁護士収入が不明瞭で、社会の通念からすると多すぎるとのコラム意見が出ていました。しかし、何も弁護士と一般の勤労者が同一レベルの収入でなければいけない理由はないで

しように。努力をした人にはそれに相応しい報酬と地位が与えられるのが公平な社会でしょう。日本の景気が落ち込んでから10数年、実に様々な階層がマスコミのターゲットになってきました。芸能人、スポーツ関係から企業、教師、大学関係、そして政治家、医師、弁護士と、ついに各階層をひと回りしてきたように思います。ただ一つマスコミ界を除いて。

と

ところで今年の干支は未（ひつじ）で、私は5回目の年男となります。さて、どのような世界になるのでしょうか、予測してみました。未年の時は多くは穏やかな変化で終始するものです。しかし今年は例外で、まず第一に日本の地盤沈下があります。激しくなるでしょう。小泉内閣は景気対策のために、大きく方向転換を余儀なくされるのではないのでしょうか。当然、国民生活にも変化が出て、財布の紐がもつときつくなるでしょう。医療情勢も更に厳しくなり、患者様の取捨選択により医療機関の優劣の格差が拡がると確信します。4月のサラリーマンの医療費3割負担と、8月の病床区分申請締切が引き金になって、とうとう病院の消滅が加速するかもしれません。以上、悪い夢ばかり見ましたが、羊はこんな夢は見ません。今年希望を持って前進あるのみです。宜しくお願い致します。



IBD センター開設のお知らせ



当院では開院以来、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患（IBD）を数多く診療してまいりました。そして、現在患者様から高い評価をいただいております。しかし、最近より総合的な診療体制を作してほしいという患者様からのご要望が強くなって参りました。そこで、「IBD センター」として、1 月中をめどに専門に扱う部門を院内に独立させることに致しました。当初は川上副院長を中心にして当院の担当医師が関わっていく予定です。従来の IBD の診察をはじめ、情報提供、生活・食事指導、患者会事務など幅広く活動していきたいと思っております。今のところ設備、スタッフなど充分ではありませんが、徐々に充実していきます。つきましては、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

院長

投書箱の設置と対応について

当院では、院内を少しでも良くしようという目的で、開院当初より院内 4 箇所（待合室、売店、各病棟）に投書箱を設置し、『患者様の声』（ご意見・ご感想など）を聞き、改善に努めてきました。

投書箱の運用方法としては、投書箱委員会を設置し、月に一度、院内より選任された委員により投書箱から回収した用紙や、郵送されてきた手紙を持ち寄り、改善案を検討します。平成 14 年 1 月から 5 月の期間、投書箱委員会で集められた『患者様の声』は、85 通になりました。内容を要約すると次のようになりますが、一人の患者様でたくさんのご意見を頂くこともあります。



「診療に対する要望」

- ・ ゆっくりした説明をして
- ・ コミュニケーションを充分とった診療をして
- ・ 薬の説明を充分にして

「施設に対する要望」

- ・ 精算機を設置して
- ・ カードによる支払をしたい
- ・ 広いシャワー室がいい
- ・ 点滴台を持って入れる広いトイレ
- ・ 個室を増やして
- ・ トイレを多くして

「アメニティーの要望」

- ・ くつろぎサロンに新聞を設置して
- ・喫煙場所を多くして
- ・ トイレにフックをつけて（バッグやコートをかけたい）
- ・ 寝巻きに小さなポケットをつけて
- ・ エレベータの出入り口の下駄箱を開閉する時うるさい
- ・ プライバシーに配慮して（会話・電話機の位置等）

「食事に関しての要望」

- ・ 冷たいものは冷たく、温かいものは温かく食べたい（病棟配膳の時）
- ・ 食堂に電子レンジを置いて
- ・ 肉料理が嫌いな人には魚料理をだして

「その他」

- ・ 会計を早くして
- ・ 対応を優しくして
- ・ 外来待ち時間が長い

ほんの一部を紹介させていただきましたが、私達にとって、患者様やご家族のお礼や感謝、お褒めの言葉は大変ありがたく、医療を行っていく上で元気を与えてくれます。具体的なご意見に関して、施設の改善など費用が多くかかる問題に対しては、当院は近い将来建物のリニューアルを考えており、そこで患者様のご要望をより反映した改装を行うことにしております。比較的小さいご意見の多い外来診療の待ち時間短縮については、実態調査をして予約方法の変更を行うなどして対応しております。また、職員の待遇や診察内容についてはそれぞれ関連の部署において勉強会を頻繁に行ったり、話し合いを持っております。その他、個人的問題に関しては、お手紙をさしあげてご理解していただくこともありました。

今後は院内に投書箱の内容の掲示と、それに対して行われた改善策を報告する掲示板を設置し、患者様のご意見のフィードバックを行いたいと思っております。赤い投書箱が目についたら何でも結構です、ご意見をいただければ幸いです。

胃の疾患について

医局長

木村

浩三

きむら

こうぞう



消化器の中で最も罹患率の高い臓器は胃です。その代表的な疾患は胃炎、胃潰瘍、胃癌です。その診断においては内視鏡検査が不可欠で、昨年は3326件の検査を実施しています。大腸、肛門病の専門施設として認知されている松田病院においても、大腸内視鏡検査とほぼ同数であり、いかに人々が胃の病気に関心があるかが伺えます。そこで今回は、その代表的な疾患についてお話ししたいと思います。

1 胃炎

大きく分けて急性胃炎と慢性胃炎とに分けられます。急性胃炎とはまさしく粘膜の急性炎症で、粘膜の浮腫、ただれ、出血などがみられます。その原因は主なものとして食物、

薬剤、ストレス、ウイルス、細菌感染などです。具体的には生ものの摂取、暴飲暴食や食中毒、鎮痛剤やステロイド剤、抗生物質の内服などが代表的であり、症状は強く、腹痛、吐気、嘔吐、下痢、発熱などが発生します。大部分は絶食、安静、輸液、内服薬によって比較的早期に回復します。

一方、慢性胃炎はゆっくりと進行する粘膜の萎縮で、言い換えれば老化現象のようなものです。原因としてはアルコール、タバコ、コーヒーなどの嗜好品、薬剤、ストレス、ホルモン、他の疾患の随伴症状など色々です。症状は比較的弱いが繰り返すことが多く、治療は特別なものはありませんが、食事では刺激物は避け、消化の良いものを摂るようにします。その他、消化剤などの薬剤を内服するくらいです。

2

胃潰瘍及び十二指腸潰瘍

潰瘍とは胃液の消化作用によりおこる組織欠損です。原因は多々ありますが、攻撃因子（胃液、ストレスなど）と防御因子（粘膜、粘液など）のバランスが崩れることによりまします。症状は上腹部の痛み、不快、食欲不振、嘔気、嘔吐などがあります。潰瘍で重要なのはその合併症で、出血、穿孔（穴が開く）、狭窄です。症状があってもそのうちに治ると思い、放置していると出血や穿孔を起こす可能性があります。尚、治療を適当にやっていると再発を繰り返し、狭窄を起こします。胃、十二指腸潰瘍は、その昔ほとんど手術が行われるような難治性の疾患でありました。その後、新薬の開発によりほとんどが手術しない

3

胃癌

で治るようになりました。しかしこの病気は一生再発を繰り返すといわれ、内服し続けることが今日の基本的な治療であります。

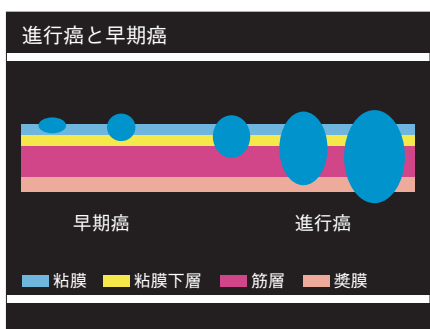
近年、潰瘍の再発にはヘリコバクター・ピロリ菌が関与していることがわかってきました。当院でも内視鏡検査を行う際に、潰瘍がある方にはピロリ菌の検査を行っており、もし菌の存在が確認されれば除菌を行っています。除菌は抗生物質と抗潰瘍薬を一週間内服するだけの簡単な治療になります。ただ、すべての方がこの治療で菌が消えるわけではないので、そのような方は内服治療を続けることが大切です。

もう一つ潰瘍において大事なことは、いわゆる「潰瘍から癌になる」ということです。実際には潰瘍から癌になるわけではないのですが、胃早期癌の中には潰瘍と同じように、良くなったり悪くなったりするものがあります。これを普通の胃潰瘍として診断し放置すると、気付いた時には手遅れということもあり得ます。それを防ぐ手段として、定期的な内視鏡検査と細胞検査が不可欠となるのです。

消化器癌の中で最も発生頻度の高い臓器

は、胃です。わが国の悪性腫瘍の約40%を占め、50歳代にピークを迎えます。症状は潰瘍とほぼ同様で、診断には内視鏡検査が必要となります。当院では以前より、内視鏡検査の苦痛を取り除くために鎮静剤を投与しており、これにより患者さんは眠っている間に検査を受けることができます。

胃癌はその発育の程度によって早期癌と進行癌に分けられます。早期癌は粘膜および粘膜下層までの癌で、それより深く進んだものを進行癌としています。進行癌では基本的に



開腹手術が必要であるが、早期癌では大きさや形によって内視鏡的に切除が可能です。早期癌でも内視鏡的切除が不可能なも

のは進行癌と同様の手術が必要です。よく胃を2/3取ったとか全部取ったとかという話を聞きますが、癌の存在する場所によって手術方法が違うわけで、全部取ったから進行癌というわけではありません。胃の入口付近にあれば、早期癌であつても全部取ります。

いずれにしても早期癌と進行癌では、その後の経過に大きな差があります。どんな病気でも早期発見、早期治療が重要であることは周知の事実です。年に一回の内視鏡検査を受ければ、少なくとも手遅れになるような癌にならないうちに発見することができます。当院では前日の夕食以降、摂取せずに来院していただければ、当日検査を受けることができます。ただし薬に検査を受けていただくために鎮静剤を投与しますので、車では来院しないようにして下さい。自分の健康は自分で守る。これが基本です！

余談ですが、大腸癌検診では便潜血反応が一般的で、陽性であれば精密検査を行うようになっていきます。しかし陰性であってもポリープや癌は見つかりません。定期的の内視鏡検査を受けることをお勧めします。

平成 14 年度の患者会活動報告

松田会	松田会は人工肛門造設者と、当院医師、看護師、その他の職種の者が、患者様や家族と医療者という立場を超えて、共通の問題や悩みに立ち向かう場づくりを目的として発足された会で、患者様が主体として運営されています。
2/24	古橋医事課主任による「福祉について」の講義。また、日常生活や仕事における悩みなどをグループワークにて話し合いました。
4/20,21	下呂温泉への一泊旅行。患者様、職員合わせ 38 名もの参加を頂き、小雨の中にもかかわらず一緒に露天風呂につかったり、宴会では有志がステージに立つなど、皆を大いにわかせました。また、なかなか公言できない悩みなど、夜遅くまでディスカッションすることができました。
7/28	定例の総会にて役員交代、会計報告、そして浅野医師による「ストーマの合併症」の講義。また、外出先（新幹線の駅、公園など）で使用する洗面ユニットのデモンストレーションを行いました。
12/1	忘年会兼親睦会は、懐石膳を嗜みながら膝を交えての団欒となりました。
今年も懇親会や一泊旅行を通じて、多くの会員の皆様に参加しやすい環境づくりを目指して、会をサポートしていきたいと思っております。	

MC 友の会	当院のクローン病の患者様及び家族を支援し、相互に情報交換するために発足した会です。現在、患者様役員を中心に企画運営をしています。今年は 3 回の定例会に加え、初めて他の医療機関の方々との交流会を持ちました。今後、さらに静岡県内の地域や病院の枠を超えて交流する会「静岡 CD (Crohn Disease) クラブ」(仮称) を発足したいと、現在他の医療機関の患者様と一緒に準備を行っています。
3/31	川上医師により「新薬及び新治療について」、また、鍼灸按摩指圧師の福岡先生により「クローン病を東洋医学でどう診るか」の講義があり、会員にて「ここ 1 年間の体調について」のグループワークを行いました。
6/1	聖隷浜松病院ほか、他の医療機関の患者・家族との交流会を開催しました。
8/4	「静岡 CD クラブ」設立にあたっての交流会の報告。また、恋愛・結婚・仕事・就職についてのアンケートを実施し、その結果について意見交換を行いました。
10/20	佐鳴台公民館にて「普段料理をしない人でも手軽にできる腸にやさしい料理」というテーマで料理教室を開催。日頃料理をしない男性陣も雑炊や長芋のお焼きなどを和気あいあいと作りました。
近年、クローン病はますます増加傾向にあります。今のところ長く付き合っていくしかない病ですので、「一病息災」となるように今後もこの会において様々な取り組みをしていきたいと思っております。	



UC 友の会	潰瘍性大腸炎の患者様と、その家族をサポートする目的のこの会は、年 3 回のペースで開催し、主に疾患の勉強や親睦会を中心に活動しています。また、毎回会報を作成し、当院で治療中の患者様 200 名ほどに発送しています。
1/27	現在市販されている「健康食品」についてのグループワークを行いました。
5/26	UC 友の会として初めての野外イベント「芋煮会」と称し、佐鳴湖公園にて松田院長も参加して鍋を囲みました。前日から材料の仕込みをしたかきもあり、天気にも恵まれ楽しい 1 日となりました。
9/1	川上医師より「ストレス解消法」の中でリラックス法や色彩、音楽療法、お薦めの音楽などの講義、また鍼灸按摩指圧師の福岡先生からは、シリーズ第 1 回目として東洋医学の基礎をわかりやすく説明して頂きました。
今年度も年 3 回の会を行う予定です。UC 友の会で実施してほしい事などありましたら、当院職員にお気軽に声をかけて下さい。お待ちしております。	





ちり蒸し

ピーチメール



Peach Mail 6

松田病院のロゴマークから命名した栄養部発信の料理紹介です。

冬の料理

材料 (4人分)

銀だら切り身 40g	4切れ
料理酒	少々
だし昆布 5cm幅	4切れ
木綿豆腐 1/4丁	4切れ
ほんしめじ	80g
えのき茸	80g
白菜	160g
花人参	4枚
大根	160g
葱	6g
こいくち醤油	40g
酢	20g
ゆずしぼり汁	少々
だし汁	40g



- ① 銀だらの切り身に食塩・料理酒をふりかけて10分おき、魚の生臭さを取る。
- ② 豆腐は4等分の大きさに切る。ほんしめじは石づきを取り、小房に分ける。昆布は乾いたふきんでふいて汚れを取る。えのき茸は根元を切り落とす。
- ③ 深めの鉢に昆布を敷き、汁気をふいた銀だら、豆腐、ほんしめじ、えのき茸を盛り合わせ、湯気があがった蒸し器で12〜13分強火で蒸す。
- ④ 大根はおろして、小口に切った葱と混ぜ合わせる。
- ⑤ 鍋にだし汁、醤油を入れ、ひと煮立ちさせて冷ます。その中に酢とゆずの絞り汁を入れ、混ぜてポン酢醤油を作る。
- ⑥ 蒸しがあがった③に大根おろし、葱のせて⑤のポン酢醤油を添える。

作り方

① 銀だらの切り身に食塩・料理酒をふり

かけて10分おき、魚の生臭さを取る。

② 豆腐は4等分の大きさに切る。ほんし

めじは石づきを取り、小房に分ける。

昆布は乾いたふきんでふいて汚れを取

る。えのき茸は根元を切り落とす。

③ 深めの鉢に昆布を敷き、汁気をふいた

銀だら、豆腐、ほんしめじ、えのき茸

を盛り合わせ、湯気があがった蒸し器

で12〜13分強火で蒸す。

④ 大根はおろして、小口に切った葱と混

ぜ合わせる。

⑤ 鍋にだし汁、醤油を入れ、ひと煮立ち

させて冷ます。その中に酢とゆずの絞

り汁を入れ、混ぜてポン酢醤油を作る

⑥ 蒸しがあがった③に大根おろし、葱の

せて⑤のポン酢醤油を添える。



クリスマス



外来看護師 新屋善朗



本日12月24日は、松田病院クリスマスディナーの日であります。ご入院されている患者様に、特別に楽しんでいただくとう始めたこの会も11回目を迎えました。今回も新たな試みを加え、プログラムの作成から会場の飾り付け、スタッフの衣装など、すべて手作りで準備してまいりました。

にぎやかなクラッカーの音とともに入場した患者様には、早速クリスマスディナーを楽しんでいただきます。今日のために特別に用意いたしましたメニューは、まず七面鳥のロースト、そしてサーモンのパイ包み、ボルシチ風煮込み、そしてそしてホテルのグラタン、メロンの生ハム巻など…(想像よりもこの写真を見てください)。患者様から「ど

のホテルに頼んだの」と聞かれることもしばしばあるようですが、これはすべて当院自慢のシェフが前日から材料を仕込んだり、ケーキを焼いたりして作り上げた心のこもった料理であります。

食後のデザートには洋梨タルトとアイスクリームのクレープ包み。これらを味わっていただきながらご期待のクリスマスコンサートが始まります。毎年ボランティアで来ていただいております、川上医師のご夫人とご友人によるフルートとピアノの演奏であります。選曲は勿論クリスマスメドレー。ロークの炎でぼんやりムードの会場に、フルートのその上品で美しい音色が響き渡ると、患者様だけでなくつい我々スタッフも仕事を忘れて聴き入ってしまいました。

途中でお尻を保護する円座が足りなくなるといっ八プリンクも克服し、おなかも心も満足していただいた後は、みんなで一緒に「きよしこの夜」を合唱し、聖なる夜は更けていったのでした。



ホームページを リニューアルしました



ホームページアドレス
(<http://www.matsuda-hp.or.jp>)

患者様のニーズに心えるべく、当院のホームページをさらにパワーアップしてリニューアルしました。今後も、当院の最新情報をどんどん掲載していく予定です。是非、一度、新しくなった松田病院ホームページをご覧ください。

動脈硬化検査のご案内

加齢と共に血管の内面にコレステロールが蓄積され、血管が硬くなったり狭くなったりすることがあります。これを「動脈硬化」といいますが、このような状態が続くと末梢血管の血流が悪くなり、手足が冷えたりしびれるなどの症状が出てきます。

今回、当院で皮膚表面から得られた脈波図を基に、動脈硬化を測定する機器を導入しましたのでご紹介いたします。



この検査は、両手両足に血圧を測るマンシエットを巻き、上腕から下肢までの血管の硬さと詰まり具合の状態を見ることができ、痛みを伴わない簡単な検査です。最近、「足がしびれる」「手足が冷える」といった症状のある方は、一度検査されることをお勧めします。

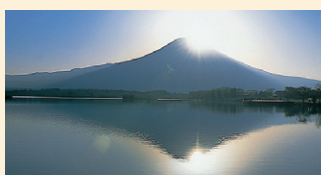
VOL.22 編集後記

広報委員会 秋山 真一

「松田病院の広報委員」——こういふとなんとなく格好がいいのですが、院内から選出されたメンバーの多くは、実は看護助手さんたちであります。ヘルパーさんとも呼ばれ、多忙な医療の現場で医師や看護師を陰で支えたり、患者様の入院生活に関わる様々なお手伝いをしていく彼女たちであります。

しかし、そんな縁の下の存在も、こと「あいあい通信」の制作で集まりますと、きつとあったのでしよう無口でカワイらしいお嬢さんだった時代はもはや遠い昔の話、「井戸端の討論」がすぐに始まり、場合によっては委員会を制御不能に陥れるのです。冒頭で「思いついたことを何でも言ってお下さい。」と書いてしまった自分を後悔してももう遅く、その卓上は戦場の修羅場と化すのです。しかし、そのような四方を包囲されて攻撃を受け続けながら、この「あいあい通信」は少しずつ改善され発行に至るわけでありませぬ。編集長の私としてはまさに地獄の時間なのですが、この試練を耐え抜いてこそいい広報誌ができあがると信じております。

年が明けて、まだまだ寒い冬が続きますが、この広報誌作りに関しては終わりのなき熱い戦いが展開されております。



撮影 / 木村浩三 医師

●患者様へお願い●月1回、必ず保険証の提示をお願いいたします。

【外来診療のご案内】

受付時間		診察日
午前	胃腸科・肛門科 ● 8:30 ~ 11:30	月~土
	IBD 外来 ● 8:30 ~ 11:30	木
	便秘外来 ● 8:30 ~ 11:30	金
	泌尿器科相談 ● 8:30 ~ 11:30	火
	内科相談 ● 8:30 ~ 11:30	水・金
	ストーマ外来 ● 8:30 ~ 11:30	月~金
	血管外来 ● 8:30 ~ 11:30	月・火・木
午後	胃腸科・肛門科 ● 2:00 ~ 4:00	月~金
	泌尿器科相談 ● 2:00 ~ 4:00	火

午前中の診療に限り予約制になっております。(初めて受診される方、緊急時等はこの限りではありません。)
〈電話予約(変更等)受付時間 平日の午後1:00~3:00〉
※予約のない方は、主治医以外の医師になることがあります。



JR=浜松駅下車 タクシーで10分 高塚駅下車 タクシーで5分
バス=浜松駅バスターミナル5番ポール(宇布見、山崎行)乗車 東彦尾
または西郵便局下車 徒歩5分 患者様駐車場180台
E-mail cra@matsuda-hp.or.jp
ホームページ <http://www.matsuda-hp.or.jp>



Matsuda Hospital

特定医療法人
社団 松愛会

松田病院

〒432-8061 浜松市入野町753番地

TEL.053-448-5121(代)

FAX.053-448-9753

(発行/松田病院広報委員会)